

No. 346

H28年4月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

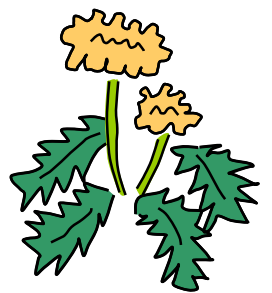
大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



張ります。トイレをきれいにします。臭い、音、光を意識して支援します。入浴が毎日実施できるように努力します。

2、楽しく生き生きと働き・学び、また、余暇活動が充実できよう支援することを誓います。

治具の提供を心がけます。作業の準備は事前にします。新しい作業の開拓を行います。工賃が倍増できるように工夫します。新しいことへのチャレンジの場を提供します。創意工夫しているんな企画を立案します。美術・芸術等の埋もれた才能の開花へのお手伝いをします。

3、健康的な生活ができるよう支援します。

昨年度よりも多く散歩を実施します。以下のことを確実に行います。体操、口腔ケア、メンタルケア、排便確認、体重の増減確認、バイタルチェック、身体チェック

施設長 松田 健

◎ 三つの約束

創設者の田中稔氏の三つ約束は、今でも新入職員に伝え、守れるかどうか確認しています。すべての人は、「はい、守ります。」と答えます。しかし、「1年経過すると約束を反故にする人もいます。①「遅刻をしない」であり、②「勉強する」という項目に対してです。一年間で一冊も本を読んでいない人もいます。

ここ数年、介護の離職者を減らすために加算された介護処遇改善手当を年度末に一括して支給しています。その支給条件にキャリアアップの施策を施設も試み、職員も応えたかどうかという部分があります。国も税金を使い、支給するので無条件というわけにはいきません。しかし、本を一冊読めばいいのです。それをしないでお金だけもらっ

ている人は税金泥棒だと思ってしまう。第一において利用者に失礼だと思えます。

① ②ができない人は自ずと、
③「辞める時はきちんとして辞める」ができません。

この3つの約束はよくできているとなってしまう。やっとなりに気付くようになりました。

◎ 一つの約束

私は一つだけ新人職員に伝えています。「トイレ掃除をできる

ようになってください。トイレ掃除を嫌がらないでください。

トイレ掃除は感謝しながらしてください。トイレ掃除は自主的にしてください。トイレ掃除は心を込めておこなってください。

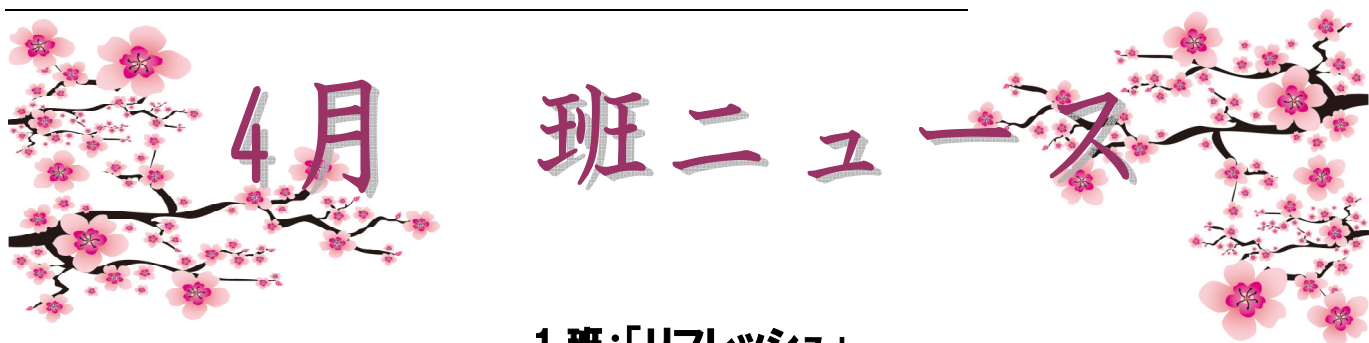
い。」と。一人に対してすべてを言っていないが、どれか一つぐらいを伝えていきます。約束で

きるか尋ねると、すべての人は、「はい、守れます。」と答えます。10年過ぎても約束を守ってくれる職員が多くいます。とても信頼しています。人の上に立っている人であると思っています。次の世代に引き継いでくれる職員であると感じています。人が見えていなくても、損得勘定抜きに、身を粉にしてトイレ掃除をしてくれる人は、利用者に対しても同じ姿勢なのです。トイレを磨くことで自分が輝く人であると思っています。

◎ 利用者の皆様への三つ誓い
4月1日就任式で利用者の方へ誓いました。

1、気持ちよく清潔に生活できるように支援することを誓います。

寝具を清潔に保ちます。破れた服は処分するか修繕します。衣類の調整をします。掃除を頑



1 班:「リフレッシュ」

今年度の1班は、「リフレッシュ」と題して、作業の配置換えをしたいと考えています。

昨年度より、作業の製品が多種多様になり、皆が色々な作業に取り組めるようになりました。作業工程を利用者さんひとり一人に合った流れを作るにあたり、作業棟内の環境の設定と席替えをしたいと思います。昨年度後半より、色々な作業の工程が入り始めたのですが、利用者さんは日々違う作業内容でも、順応できるようになり、違う作業に取り組むのもすぐに切り替えてくれます。新しい作業に関しては、興味を持たれ、いつもと違うことで、新鮮味があるのか、工程の内容を説明していると、とても真剣に話を聞いてくれています。

利用者さんの意欲が満ち溢れているのを感じています。作業棟内を「リフレッシュ」して新たな気持ちで今年度のスタートを始めたいと思います。

統括リーダー 八木 良江

2 班:「力を合わせて」

いよいよ新年度がスタートしました！今年度は利用者24名、スタッフ11名で頑張ります。今年度のテーマは「和を以て貴しとなす（わをもってとうとしとなす）」を掲げさせて頂きました。個々を認め合い、調和しながら互いを高め合えるようなチームを目指していきます。

今年度の2班は新たな作業に挑戦します。それは「創作活動」です。利用者の皆さんが制作した作品を工夫、加工して様々な商品を作り、三気の里をもっともっと色々な方々へ知って頂くことで、三気の里の「輪」を広げていきたいと考えています。これまで取り組んできたフルーツキャップやトマトパックの作業はもちろんのこと、新しい活動を取り入れながら、より充実した活動が提供できるようにスタッフ一丸となって精進していきます。今年度も宜しくお願い申し上げます。

リーダー 森田 康之

3 班:「やりがいを求めて…発進！！」

今年度も3班リーダーさせて頂くことになりました。3班は利用者26名、スタッフ12名で主に農耕作業とドリップコーヒーの袋詰め、販売作業を中心に取り組んでいます。今年度は地域行事に参加し、利用者の方々とコーヒー販売をする機会を増やしていきたいです。農耕作業では昨年度は良質な椎茸ができ、販売先でも好評価を頂きました。見かけたらぜひ買って下さい♪


今年度の3班の目標は「やりがい」です。各個人によって「やりがい」は違いがあります。しかし、3班では農耕やコーヒー販売を通して作る事、収穫する事、販売する事を共感し「やりがい」を持って仕事ができるようにスタッフ一同団結して利用者の方々に提供して行けたらなと感じています。またスタッフ一人ひとりが利用者の皆さんに想いやニーズに応えられるように創意工夫をして支援して行きます。今年も元気よくやっていきますのでよろしく申し上げます。

リーダー 毛井 寛康

4 班:「あらたなる目標をもって」

寒い季節がようやく過ぎ、活動しやすい季節がやってきました。これから半年は寒い季節を乗り切る為の、重要な時期となります。今年度は、過ごしやすい時期に十分に身体を動かし、身体のケアをしながら、長くお休みしていた紙漉き作業を再開しようと考えています。唯一の紙漉き担当者であった Y さんも、2 年近くの間すっかりパラシュート作業が出来るようになってしまいましたが、この春から再び身体にしみこんでいるであろう勘を取り戻し、需要に沿った物を漉きあげて欲しいと期待をしています。その他病気はしなかったものの、冬の寒さの中身体の痛みや皮膚の荒れで辛い思いをした人が何人もいらっしゃいましたので、足腰や手先の訓練も個々の課題を挙げて取り組んでいきます。今年度の冬は、それまでの成果だと喜びあっていることを期待して、メンバー全員で新しいスタートをきります。

リーダー 石丸直美



5 班:「心機一転」

いよいよ新年度が始まりました。気持ちも新たに、それぞれの目標を掲げスタートしていきたいと思います。作業におきましては個々の作業スキルに沿った作業を提供し、課題を明確に、利用者の方々が主体的に動ける作業作りをしていきたいと思います。また、今年度は健康活動にも積極的に力を入れ、健康な身体作りをしていき活気溢れる生活が遅れるよう努めていきたいと思います。自宅、グループホームと連携を密にとり、迅速、正確に対応していき、安心した生活に繋がるよう努めていきたいと思います。

「今日はこれができた」ということを積み重ね、利用者の方々、スタッフ一緒に成長できる一年となるよう心機一転、邁進していきたいと思います。

リーダー 久米 善久



事務長便り:「事務の窓から」

昨年 6 月、事務所が旧支援センター跡（体育館内）に移動しました。入所棟から離れると不便だと、ずいぶんためらっていたのですが、家族の方やお客様がお茶を飲んだり雑談したりできる広いスペースが欲しいとのご意見をいただきました。まず来園者が事務所の場所が分かるように周辺を整備し、移動が困難な方でも車で玄関先に来れるよう駐車場を配置しました。お客様用のテーブルや椅子も準備し、気持ちよく利用していただくために、トイレや事務所まわりはいつも清潔を保つように心がけています。あとは多くの皆様に利用していただくばかりです。事務所スタッフは、いつでも笑顔でお出迎えできるよう準備しています。

さて、移動にともない事務所から見える風景も変わり、人の往来がよく見えるようになりました。作業棟（仕事場）へ向かう利用者さんたちの様子。

送迎されるご家族とその子ども（利用者）さんの様子。

休憩時間や出退勤時のスタッフの様子。

初来園で迷いながら上がってこられるお客様の様子。

散歩や遊びにやってくるたくさんの園児や先生たちの様子…。

事務としてまだまだやれることは多そうです。

みんなが利用しやすく居心地のよい三気の里になるよう、「人」「物」「サービス」の充実を図りたいと思いますので、ぜひ事務所に立ち寄りいろんなご意見をお聞かせください。

事務長 寺田 逸朗

【療育雑記】

「いつかあの事を思い出してきつと腹を立ててしまう」

業務課長 松本慎太郎

昨年の11月のことです。地域によって七五三のやり方は色々ある中、地元の風習にならって2歳の息子の髪置きのため、紋付き羽織を着てお宮参りに行きました。すれ違う方、特に年配の方から「おめでとう」とか「可愛い」など声をかけられます。よくある光景だと思えます。色んな意味で嬉しくなる瞬間の一つです。今回もたくさん声をかけてもらったのですが、ある参拝者のAさんが「可愛いね。でも子どもにとつては迷惑なことなんだよね。」と言つてこられました。未熟な私ですので、それはそれはカチンとききました。「こやつは〜！」と心の中で叫びました。その方は子どもを想つて言つてくれたとは思いますが。何の意味があつて、何をどうするのか説明されぬまま親や周りの都合に合わせている

ことは往々にしてあると思えます。ただただ我慢させていることもたくさんあるのだと思います。私には2歳の息子が髪置きを「迷惑」と思つていたのか、思つていなかったのか、そもそも「迷惑」という思想があつたのか、なかったのかは分かりませんが、息子の想いを推し量るようなことはしていませんでした。

ある事例で考えさせられたことがあります。大声を出す方がいます。何分、何十分と言い続けることもあります。場所や時間を問わないので、とてもとても家族は困つていらつしやいました。大声を出さなくて済むように支援しているつもりですが上手いかならないことばかりです。何か伝えなかつたり、感情を抑えきれなかつたり、嫌な思いを発散させたりしているのかもしれない。本人理解のまずさ、支援のまずさから、大声を引き出しているのかもしれない。そんな状

況でしたが、どうにかならないかと模索した結果、大声を出した時、本人がハンカチを口にあてる方法に至りました。本人自身がその気にならなないと口にあてることはないので、それにより、声の大きさが小さくなるので、周囲への影響はかなり減り、問題の程度も小さくなったように感じました。支援者としては「これだったらまだいいかな。」となつたのです。

ですが、本人としたらどうなのでしょう。あの参拝者A的に言えば「静かになつたね。でも大声なんて出したくないんだよ。」となるのではと思ひました。問題と捉える行動が、しなくて済むようになることはとても難しく、支援によつて軽減することは支援冥利に尽きます。しかし、それは支援者側の都合、支援者だけの満足に過ぎないのではないのでしょうか。本人は「なくしてくれよ。」と願ひ、問題と捉える行動が0になつて初めて本人は「良かった」

と満足するのだと思ひます。そう捉えることが、本人の想いを推し量ることだと信じています。また、人権や障がい特性という言葉にかこつけて、力量のなさをひた隠していることもあり。何かあれば「人権的に、」「特性だから、」と言い訳して、力量のなさに目を瞑るといふようなことは止めたいと思ふ限りです。

あの日、「可愛いね。でも子どもにとつては迷惑なことなんだよね。」と言われた帰りの車中、言うこととやることが矛盾する私ですので、「(七五三など) あなた方が引き継いできたから、引き継ぎようとしてやっただけですぞ！」と、体のいい言い訳をして蒸し返してしまいました。



